



# 学校だより

(10月号)平成30年10月3日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

## 【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
    - ・進んで勉強する子
    - ・自分からあいさつのできる子
    - ・仲よくたすけあう子
    - ・じょうぶな子
- 《今月の生活目標》本をたくさん読もう

## 『 読書の千本ノック 』

校長 河井 尚

「暑さ寒さも彼岸まで」とよく言われますが、神無月 (かんなづき) を間もなく迎えようという長月 (ながつき) 末にあって、朝夕の気温が低い日々が続いています。澄んだ晴天が広がる「秋日和」が待ち遠しい今日この頃です。

日本で、「秋」というと様々な修飾語が付きます。それも「人間の趣味」に関する修飾語がつくことが多いことに気づかされます。「芸術の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」などです。それぞれの「秋」に思いを馳せたいと思います。

今回の表題は、生活目標「本をたくさん読もう」にちなんで「読書の千本ノック」。少し古い記事ですが、私が好きな野球選手の一人、松井秀喜選手の高校時代の生活にまつわるお話です。紹介いたします。

アスリートの「勝負強さ」って何なのだろう。ここぞという場面で活躍する選手がいれば、チャンスに限って力を発揮できない選手もいる。持って生まれた運なのか、ずっと不思議だった。

石川県の星稜高校に野球部名誉監督の山下智茂さん(67)を訪ねた時のこと。「野球は人間がやるものだから、心がしっかりしていないとプレーに表れる。ところで人間性を豊かにし、精神力と忍耐力を同時に高める指導法がある。何か分かりますか？」という。

答えは「読書」。

だから、野球部員にいつも「本を読め」と指導する。

山下さんの“読書の千本ノック”を、まともに受けて立った高校球児がかった。山下さんはこの生徒のために3カ年計画を立て、定期的に書物を手渡し続けた。最初は日本や世界の歴史書。続いて国内外の教養書。福沢諭吉、二宮尊徳、アリストテレス……。過酷な野球練習の後も、生徒は片道1時間の電車通学を利用し、本を読み続けた。山下さんは振り返る。「彼、松井秀喜君は、僕が知る中で最も本を読んだ高校生です」

(毎日新聞 2012年06月12日の夕刊より)

松井秀喜さんは、プロ野球の巨人やメジャーリーグのヤンキースなどで活躍し、国民栄誉賞も受賞され、現在はニューヨーク・ヤンキースのGM特別アドバイザーを務めています。

新開小学校の児童は本当にたくさんの本を読みます。読書の秋です。児童のみなさんも「読書の千本ノック」はいかがでしょう。

先日行われました第42回運動会に、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様にご来場いただき、ありがとうございました。皆様の温かい声援は、練習を重ね爽やかな演技を繰り広げた子ども達にとって励みとなり、今後の学校生活の糧となるはずです。感謝申し上げます。

